

### 【全体概要】

本県はグラジオラスの主産地で、県育成オリジナル品種「常陸はつこい」は市場性の高い極早生品種である。5～6月出荷作型の栽培には適しているが、高温に弱く生理障害が発生しやすいため、夏出荷には不向きである。今後品種の普及拡大を図るため、10月以降の抑制作型における安定生産技術を確立する。

### 新品種・新技術等の概要

#### 【品種特性】

- ・H31年3月に登録となった県育成品種。サーモンピンクの大輪で、黄色のぼかしが入る。
- ・露地季咲で75日、トンネル・マルチ促成栽培で120日程度で開花する極早生品種である。
- ・促成栽培で、ピンク色系の主力品種が出荷される前の5月から出荷が可能であり、有利販売が期待される。



トンネル・マルチ促成栽培の様子 →



常陸はつこい

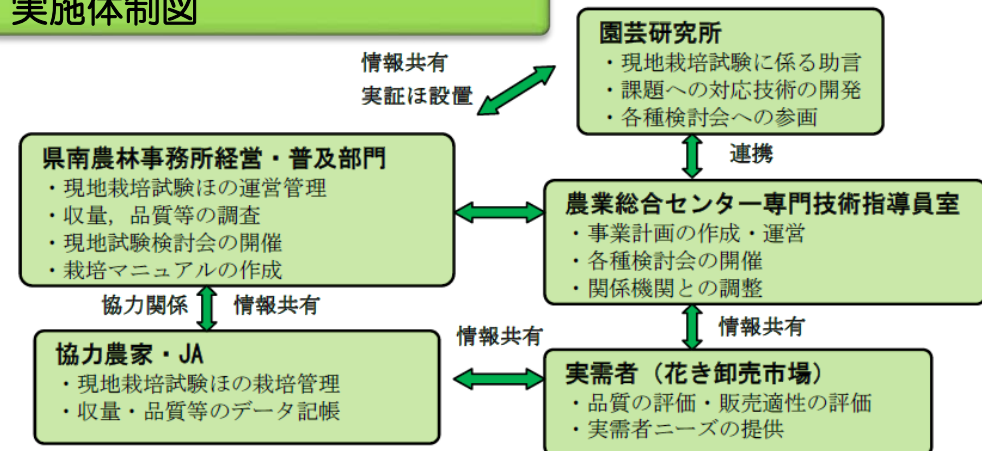
### 主な取組内容

- ・10月以降出荷の抑制作型への品種適応性実証  
定植時期、利用球根サイズの検討
- ・市場適応性の検討  
市場関係者の評価調査
- ・栽培マニュアルの作成  
県内生産者・関係機関へ情報提供



栽培マニュアル

### 実施体制図



### 実績と今後の展開

#### ●取組みの実績結果

- ・8月中旬定植では10月下旬の開花となった。季咲作型と比べると、ボリュームがやや小さくなる傾向が見られた。
- ・9月初旬の定植では、採花株率が50%以下となり、8月中旬までに定植する必要があったと考えられた。
- ・6～7月に開花したものより花色が薄くなる点が懸念されたが、市場では問題はないとの評価であった。出荷量の少なくなる11月以降の出荷が有利との意見があった。
- ・球根サイズによる品質の差は認められなかったが、2等級では1球あたりの出芽数が増え、作業性が悪くなるため、3等級の利用が良いと考えられた。

#### ●今後の展開

- ・現地実証試験を継続し、切花品質向上のため植付け条数を検討する。
- ・経営試算を実施し情報提供を行う。